

## アンケート記入者内訳

### 身分

学生 25名（学部生 2名、 修士課程1年 7名、 修士課程2年 7名、 博士課程1年 3名、 博士課程2年 4名、 無記名 2名）、

有職者 41名（研究員 3名、 講師 2名、 教員 4名、 助教 6名、 特任助教 1名、 准教授 10名、 客員教授 1名、 教授 14名）

その他（シニア） 3名

### 年齢

20代 25名

30代 5名

40代 12名

50代 17名

60代 7名

70代以上 3名

### 性別

男性 48名 女性 21名

## 内容について

・NAISTは子育てがしやすいように積極的な取り組みをされているということがわかりました。学生 20代女性

・NAISTの研究者支援は進んでいると思いました。大きい大学は対象者が多いのでここまでいていないと思う。有職者 30代女性

・女性としてのライフイベントをこなしながら研究者として男性と同じように働きたいと考えていますが、研究者の男女比を見ると取り組みを行っていても、やはり結婚・出産・育児などでリタイアする人が多いと感じました。私の所属大学でも約10研究室のうち女性教員は1人なのでNAISTのように女性が働きやすい環境づくりを私の所属大学でも積極的に行って欲しいと感じました。学生 20代女性

・NAISTの女性研究者支援に感銘を受けました。妊娠をされている方が何を必要として、何が不便に感じるのか、気付いていなくてもいいことに同じ女性として恥ずかしく思います。また共助サポーターの手厚いサポートに驚きました。女性だけではなく、男女ともにお子さんがいらっしゃる研究者にとって素晴らしい活動だと思います。本当に素晴らしい活動を今回お見せいただいたからこそ、東京医科大があのようなニュースがあったにも関わらず、女学生支援に関して国から支援をもらっていたことに腹が立ちました。学生 20代女性

・2つの大学の取り組みについて詳細に紹介していただけたことが良かったと思いました。若い人たちの支え、励みに繋がることと思います。20～40代の若い男性会員に是非聞いていただきたいことですね。どうしたらこのワークショップに足を運んでいただけるのでしょうか。シニア会員 60代女性

・女性のライフイベントに対する支援を紹介していただき、これから社会に出たり、研究を続けていくであろう学生として大変有益な情報を得ることができました。学生 20代女性

・奈良女の活動を知ることができて良かったです。有職者 50代女性

・NAISTの支援制度（アシスタント、在宅勤務など）は男女共に使える、というのが面白いと思いました。女性だけの支援が多い中で両性の親を共に支援するのも重要だと思います。システムが無い、設備が無いと無くて当たり前となってしまうと整備する動きにすらならないので、各組織でどのような取り組みが行われているかを共有することが大切だと考えています。博士課程（に限らないが）の女性で葛藤を抱えている人も多いように思うので、積極的に支援できる環境を作り出していきたい。奈良女のサポーターの取り組みは興味深かったが、東京の大きな組織ではなんとなくうまくいかなさそうな気がした。それぞれの土地にあったシステム作りが大事なのでしょうかね…。有職者 30代女性

・学会の制度で育児や介護にかかるお金の補助をするものがあると知り、女性への負担が減ると思いました。学生では女性が4割ほどいて、一般の方には会員

や参加している方が少ないとのことでしたが、女性は結婚して子供を産むという目的があり、なかなか今の現状だと女性で研究を続けるというのは意識改善しないとまだまだ難しいのかなと思いました。学生 20 代女性

・女子の活動を推進しようという働きは素晴らしいものだと思います。私は昨年も学会に参加させて頂きましたが、昨年よりも女子の人数が増えているように感じました。私の周りでは理系女子が多い印象があるので、こういった学会などに積極的に参加して欲しいと感じました。学生 20 代女性

・身近に子育て中の女性研究者がいなかったため、どのような制度があるのか今まであまり気にしたことがありませんでした。しかし子供の急な発熱で実験を中断しなければならない時、ラボにリサーチアシスタント(?)が居て、実験をサポートしてもらえる制度は良いなと思ったので NAIST だけで無くこのような制度が全国にどんどん広がっていくといいなと思いました。学生 20 代女性

・他大学の取り組みについて聞くのは参考になった。ならっこ(ネットの)サポーターが広がると良いと思いました。有職者 40 代女性

・遺伝学会としての取り組みの中で育児や介護に伴う学会参加への支援について初めて知りました。現実的な良い取り組みだと思いました。有職者 40 代女性

・Q 何故、理系進学・理系就職の女性希望者の割合が少ないのか。

(参考程度に…)私の同期には理系学部の女子学生の中で「専業主婦がしたい」という女性が多くいました。

→意外と、働かず家事・育児に専念したいという意思の方が多いのか

→長期的な仕事に就きたくない(就くメリットを感じていない)のか…?

理系職(研究職)での男女共同参画をうたっていくためにはまず理系職希望者の女性を増やす必要があるのかという所は目から鱗でした。

“現場”(研究室含め)学会の風景を中高生が容易に見学できる機会をもっと多く作るべき。

女子大でも重要だと思うが男性にこそ知っていただく必要性があると思います。男女共同参画なのだから、女性の考え/男性の考えを各々が受け入れ改善してい

くことが重要である。女だけが知る・行動する、では効率が無いと思われる。  
学生 20 代女性

・ 遺伝学会の交通費支援は先進的だと思います。ちょうど身近に付き添い者の交通費支援もして欲しいとの意見がありました。NAIST、奈良女子大の取り組みは大変参考になりました。有職者 40 代女性

・ 色々な制度があって良いと思いましたが、そういった制度があることを普段の生活の中で知ることがなかなか無いと感じました。なので、制度の周知は大切だと思いました。学生 20 代女性

・ 現在の女性の研究者の方が子育てにおいてなかなか厳しい状況にあり、そのサポートをする為に様々な取り組みがなされているのかを初めて知りました。男女共同参画への取り組みがより広がっていく事が大切だと思いました。学生 20 代女性

・ 奈良女はやはり充実してますね。今ほどこの大学も金がなくて出来ないところもあります。中枢のやる気が大事。有職者 50 代女性

・ 私が NAIST にいた時よりもさらに子育てしながらの研究をやりやすい環境になっていて（保育室、休憩室、休日のベビーシッターなど）驚きました。有職者 40 代女性

・ 事例紹介が続いたので少しフォーカスを絞ったら。有職者 50 代男性

・ アカデミックアシスタント、スタートアップ研究費、保育所（学内）、女性専用休憩室→NAIST の現状：ゆっくりだが確実に進んでいる事が理解できた。WLB－実験系は困難なので事務仕事とは異なった方策が必要。中高生への「リケ女」宣伝が必要。シニア 70 歳以上男性

・ 全体として（ペースはもう少しあげるようにできる事が望ましいものの）前進している実績が見える形で出て来ているように思いました。有職者 60 代男性

・子育てに関して様々なサポートがある事がわかって良かったです。学生 20 代男性

・アカデミックアシスタント制度→補助研究員は派遣でしょうか？専門のPD？を臨時雇用？ 有職者 50 代男性

・NAISTでの具体的な取り組みが分かって参考になった。奈良女のサポーターシステム、サポーター養成の仕組みは素晴らしい。有職者 50 代男性

・女性をより雇用する為に、既存のシステムを変える必要があるというのは納得いきました。学生 20 代男性

・一人目の方のお話が面白くなかった。聞いていて不愉快だった。学生 20 代男性

・奈良女子大、NAISTとそれぞれの特徴がよく分かった。男性の取り組みはどうなのでしょう。有職者 60 代男性

・開催地（大学）の特色についての話題は良いと思っています。有職者 50 代男性

・NAIST、奈良女大ともよく支援している印象を受けた。有職者 40 代男性

・男女参画の取り組みを伝えるのは良いが、やや活動への情熱が伝わってこない。話がやや面白くない。ただ、地道な取り組みが必要なことは理解できた。有職者 50 代男性

・当学会の女性の参加者の比率を年代、立場ごとに現状がよく分かった。女性研究者を支援する為に各大学が様々な取り組みをしている事が分かったが、それらの取り組みによって女性研究者の増加にどの程度効率があつたのかが知りたいと思った。また現場にいる女性研究者がどのように感じているのかがもう少

しあれば良いと思った。学生 20 代男性

・NAIST の男女共同参画の取り組みを伺って（二階堂さん）アカデミックアシスタント制度など、すごく先端的な制度だと拝見しました。全て文科省の育成事業の費用からなのではないでしょうか。在宅勤務やプラスの保育なども素晴らしいです。この制度を日本全国で行なってもらえるように国の財務を管理する官僚にも理解してもらえないでしょうか。→「共助」という地域の皆さんの支援を得るシステムは全国それぞれでどこでも出来るかもしれない。遺伝学会として国に働きかけられないでしょうか。有職者 50 代男性

・NAIST アカデミックアシスタント どこに所属するどのような人がヘルプに入るのか。学内？学生？派遣？委託？ 有職者 50 代男性

・遺伝学会は医学系の学会と異なり女性の率が高く、非常に良いと思った。また、私大と比較し、国立大の取り組みはどれもきめ細かく恵まれていると感じた。私大医学部とはかなりの格差があると感じた。有職者 50 代男性

・医学部の入試の不正問題は重要だと思います。有職者 60 代男性

・理系女子を育てる取り組みとして高校生との交流を紹介していただいたが、高校生は理系・文系に分かれているので、高校生との交流はちょっと遅いかも。中学生女子、高校進学し理系・文系に別れる前に心を掴む取り組みも良いかも。有職者 50 代男性

・データに基づいての発表だったので聞き易かったが予定発表時間が長過ぎた。20 代男性

・大学によってだいぶ取り組みが違っていると分かった。有職者 40 代男性

・NAIST の支援の中で一部分ではあったものの学生でも利用できる支援があるのは素晴らしいなと感じた。学生 20 代男性

・ 遺伝学会の取り組みが功を奏し、会員の女性比率が理農学部学生のそれとほぼ同じとなり、良い意味で頭打ちになっていることに敬意を表します。女性の定着率が低いとの分析は重要で、まだ多くの課題があることもわかりました。他大学の取り組みは非常に参考になりました。現在は直接関与していませんが、男女共同参画に関する意見照会があった時など、今回のお話も参考にして積極的に意見を述べようと思います。有職者 50 代男性

・ 数値で示されたので理解が深まった。

以下のことが興味深かった

アカデミックアシスタント制度、在宅勤務制度、ランチミーティングのシステム、大学連携プロジェクト、学生との協働的活動（ならっこネット）、大学院生やポストクのキャリア開発支援。有職者 70 歳以上男性

・ 他大学の取り組みが分かり勉強になった。有職者 40 代男性

・ 各大学の取り組みが具体的に紹介されていて大変参考になった。奈良女子大のキャリア支援などは他大学でも行うべきだと考えられた。有職者 30 代男性

・ 奈良女子大のお話を興味深くお聞きしました。ならっこネットワークの運営の詳細や利用者などの声をもっと知りたいと思いました。有職者 30 代男性

・ NAIST や奈良女子大の育児支援の取組みは他の大学（国立大）よりも優れていると思います。共助サポーターの考え方はもっと広めるべきだと思います。有職者 40 代男性

・ 色々な例を知ることができて良かった。有職者 60 代男性

・ 報告、紹介は参考になるが、これからどうするべきかに繋がる内容も欲しい。有職者 50 代男性

・ 初めて参加しました。大変勉強になりました。有職者 50 代男性

・「20～30代男性の協力」少ないとのことでしたが、その年代では男女に限らず自分のキャリア形成に必死であるかもしれない、と。有職者 50代男性

・NAISTの活動報告は役立った。教員が自らの経験も含めた話よりも職域の違う方が集めた情報に聞くべきことが多いと感じる。有職者 60代男性

・女性の研究者が増える、女性の研究者が働きやすくなることによる男性にとってのメリットはなんですか？全体にとってのメリットは？性比差があってもいい職種はあると思うが、研究職はどうでしょう。学生 20代男性

・東京医大での「状況」を知って驚きました！学会のレベルで努力するのは勿論大事ですが、一般社会の構造的改善がされることが最も肝心なところでしょうね。学会では例えば子連れ参加可能な準備（託児所/保育室など）。大学レベルでは人事面へ配慮が可能なシステム/託児システムづくり。奈良女子大での取組みは流石だと思いました。その他 70歳以上男性

### 開催日程，時間，会場などについて

・口頭発表会場から近く、ランチョンセミナーという形式だったので学生でもとても入りやすかった。学生 20代女性

・交通の便の悪い場所で開催する場合は、もう少しだけ最初のセッションの開始時間を遅めにしていただけるとありがたいです。（交通便が悪くても自宅や大学から場所が近いと陰性旅費に宿泊費を含めてもらえないことがあります）学生 20代女性

・初日の昼休みに定着していることは良いと思います。シニア会員 60代女性

・ご飯を食べながらお話を聞くことができ良かったです。学生 20代女性

・丁度良かったです。有職者 50代女性



- ・ランチョンセミナーがちょうど良いと思う。有職者 40 代女性
- ・会場近くに宿泊施設がないことが残念な点です。有職者 40 代女性
- ・研究発表のすぐ後だと、発表時間がのびた時に影響を受けてしまい、後の発表にも響くと思うので、開始・終了時刻をもう少しうまく設定した方が良いと思いました。学生 20 代女性
- ・時間が足りない。有職者 60 代男性
- ・適切（弁当数は参加者に行き渡るのが望ましい）。有職者 60 代男性
- ・ちょうど良いです。ただ、このワークショップから次のセッションまでの時間がタイトだと思います。学生 20 代男性
- ・ランチョン形式は望ましい。有職者 50 代男性
- ・スタッフは大変でもランチョンは人集めにも仕方がないのでしょうか。お世話様です。有職者 50 代男性
- ・時間はやや長いと思った。学生 20 代男性
- ・ちょうど良いです。初日のランチョンとしてみなさん参加しやすい。有職者 50 代男性
- ・食事が足りないようでした。有職者 50 代男性
- ・討論の時間を確保できる工夫を。有職者 60 代男性
- ・開催日程は良いが発表時間が少し長い。20 代男性
- ・適切と思います。ランチョンはありがたいです。奈良女子大のサポーター制度

は非常に興味深い取り組みと感じました。事故があった際の対策などお聞きしたかったが時間がなくて残念でした。有職者 50 代男性

・質疑時間がないのでは「ワークショップ」として物足りない。有職者 50 代男性

・ランチを兼ねているのが良いと思います。適切な会場を準備していただきありがとうございます。その他 70 歳以上男性

### これから取り上げて欲しいテーマなどについて

・各研究者の PI の方針によって出産・育児後に研究に復帰できるかどうか、その後のキャリアが大きく変わるのが現状だと思います。どのラボに所属していても同じような支援が受けられるような支援を社会全体がしてくれたら女性研究者がより増えるのではないかと思います。学生 20 代女性

・今回のように男女共同参画推進委員の活動内容を聞きたいです。またその実際の利用状況、博士や修士課程後の研究者以外の進路（男女別）を聞いてみたいです。学生 20 代女性

・男性研究者目線の子育て支援やライフイベント支援への取り組みについて（男性目線のことを紹介することも、女性の参加者増加等に繋がるとと思います）  
ex) 育児のことを分かっている男性がいると知ることができるなど。学生 20 代女性

・育児支援とは別のスキルアップ等  
例) 時短仕事術、プレゼンのスキル、など。有職者 50 代女性

・マスター以降の女子比率がとても少ないのでその原因に関することや取り組みなどに関するテーマ。学生 20 代女性

・中高生の理系進学及び理系就職希望数（割合）と希望者増加の為のより具体的な取り組みとその効果。学生 20 代女性

・制度の利用状況や利用促進のための取り組みなど。学生 20 代女性

・男性の意識は変わっているのかな？有職者 50 代女性

・介護、学校へ不登校・不適應の子供、家、地域問題。有職者 50 代男性

・さらに「研究キャリア弱者」にも広げては。

例◎非常勤職（男女を問わず）

◎40歳以上、男性、日本人のポストク層（非常勤含む）がキャリアパスに困っているのでは。（競争的研究資金の応募条件からも外されやすい傾向がここ数年顕著になってきているのでは…）

◎大学院生（特に博士後期課程？）有職者 60 代男性

・若い女性教員が増えると産休・育休で授業担当に影響が出る機会が増えるはず。それに対しどのようなバックアップシステムを作っておくか（新たな授業の準備など時間を使わされるので）。また、代わりに授業担当する教員をどのように補助するか。（研究アシスタントの配置？校費増額？）有職者 40 代男性

・親の介護へのサポート。有職者 30 代男性

・学会での託児支援は取り組みが進んできているように思うが、利用者は少ないという例をよく聞く。なぜ利用が少ないのかに切り込んでみる。有職者 50 代男性

・高校生・学部生の女子を研究者にリクルートする取り組みについて。学生 20 代男性

・修士、博士終了後に研究職につかなかった方へのアンケート（男女とも）（一般職への就職内定なども）有職者 40 代男性

・当学会の参加者が各々の現場（研究機関）で女性研究者（学生）を支援する取り組みが出来るかといった内容が今後あれば良いのではと思った。学生 20 代男性

・アカデミックアシスタントの研究補助員の現場の声を男女それぞれから聞いてみたいです。どうやって対処しているのか？（多様な業務、作業内容 etc）得意な内容ごとに分担？ 有職者 50 代男性

・他学会の現状。有職者 50 代男性

・医学部の入試不正問題。有職者 60 代男性

・任期付教員/ポストクが任期中に産休等をとった場合の人気の扱いの実態。有職者 50 代男性

・男性側からの視点。有職者 40 代男性

・女性が働きやすい環境を作るのと同時に、男性が子育てに主体的に関与しやすくなるような環境づくりやそういった取り組みについても取り上げて欲しい。学生 20 代男性

・評議会では当事者が少ないのでこの場で学会としての取組に関する議論も行えばいいと思う。有職者 50 代男性

・若手研究者の任期に関すること。有職者 40 代男性

・大学で託児室/女性専用休憩室などを設置したプロセス（苦労話）紹介。その他 70 歳以上男性